

## 元田肇君

前後十回の選挙に一回も當選を外さざるの點に於て君の平凡ならざるを見る、次に奇とすべきは、一度身を政界に投じ、一足飛びに幹部の列に伍して、依然領袖の地位を堅持するに在り、曾て政友會内閣を夢想し、馬車を用意したる甲斐ありて、拓殖局總裁たりしは定めて嬉しからん

## 松田源治君

花婿早々、皮肉屋の花井と憲法論を戦はして議場に花を添へたるは大手柄なり、三分の鬚骨に七分の才情を加味し、術氣餘りありて眞氣足らざるの恨みあれども、名を成すことの割合に早かしりは蓋し覇氣の賜ものならん

## 豊増龍太郎君

國民黨の院内幹事として君の羽振りよきは蓋し武富時敏といふ後楯者あるが爲めなるべし

## 松田正久君

如何なる場合にも平然として色を動かさず、笑もせねば怒りもせず、不得要領の間、而かも能く要領を得て、他に乘すべき間隙を與へず、何事にも何うでもよい主義かと思へば、マンザラ左にあらず、先づ一步を退き、而して更に一步を進め來れば、箱根の險も猶且つ之を突破するの勇あり、得意に在て冷然驕らず、失意に處して泰然驚かず、蓋し大愚人にあらずん



ば小英雄とも云ふべきものならん、要するに政友會の大黒柱なり

### 有田源一郎君

佐賀縣の素封家と云ふまでにして、何等の特長なき老爺なり

### 川原茂輔君

松田正久の股肱として佐賀政友會の重鎮たり、常に優勢なる國民黨と對立して能く政友派を統一したるは君の力興つて多きに居る、緻密にして遺算少なく、敢爲にして事に倦まざる、君の長所は即ち此に在り

### 武富時敏君

紅木屋侯爵と云へば、誰れ知らぬ者なき改進黨以來、財政通として許されたる武富時敏君其人なりとす、君の財政論は世既に定評あり、確かに議會中の出色たるに相違なしと雖も、餘りに我れは顔に氣取り過ぎる爲め、キザ氣多く小面憎しと云ふものあり、十年一日の如く改進黨系の領袖と稱され居るも、未だ腹心の乾兒なきは、蓋し熱涙に乏きを以てならん



永野 静雄君

神崎東藏の補欠として當選せる新議員、未だ何等の月旦に價するものなし

山田 珠一君

熊本國權黨の後進にして、能く佐々友房の衣鉢を繼ぐ、冷靜の間、烈火の燃ゆるが如き一血性を抱藏する點に於て、寧ろ克堂に優るものあるを見る、君亦文才あり、九州日々新聞は君の督する所なり

安 達 謙 藏君

佐々克堂を失ひたる中央派は君の努力に俟つもの甚だ多し、君は山田珠一と共に熊本國權黨の中堅にして代議士中に在りても其手腕力量自から一頭地を放出す

紫 垣 一 雄君

熊本國權黨の新進と稱せらる、蓋し中央派中の陣笠たるに止まらんか



内野 延君

老實なる一紳士にして何處にか確つかりしたる所あれど、特筆する程の人物にも非ず

木村 義賢君

小學教員に身を起し銀行の頭取となる既に稱す可し、代議士たる更に益々可きに似たるも、頽齡六十前途知る可きのみ

守山 又三君

高商出身にして代議士たるもの甚だ稀なり、僅に君と淺野湯吉を數ふるのみ、君健在なれ

高田 露君

山田嘉悦二翁逝後、孤城に據りて國權黨と相對峙し以て熊本政友會の頽勢を維持し居る君の苦衷や思ふ可し、君今老境に入り、亦た昔日の意氣を缺く



## 高森 新君

政界よりは實業界に活動す、操守堅實、漫りに人と争ふを好まず、是れ君が何れの方面にも信頼を博する所以ならん

## 原田 十衛君

確かに才人なり、然れども其才や大ならず、何處までも秘書官式なり、是れ君が文部、司法、大藏各大臣に秘書官として調法がられ、今も亦た東京助役の筆頭たる所以か、若し夫れ責任の當面に立つは、君の長とする所にあらざる也

## 水間 此農夫君

有福なる若後家の入婿となり以て今日の位地を作れるりと云ふ者あれども能く得て其眞偽を知らず、今日にては兎も角も一廉の實業家として會社銀行の重役たるもの二三に止まらず、新聞をも經營せりと云へば評判程の無能漢にもあらざる可し

## 肥田 景之君

今でこそ老實温良なる實業家となり澄まし居れど、西南戦争當時は僅か十六歳の小冠者にして薩軍の猛者と呼ばれたりの稀ならん、近來一際目立つ赤テヨッキも當時の思ひ出なりとは御當人の自慢話なり



川越 進君

日向人にして鹿兒島縣會議長となる、既に非凡ならざる可らず、而かも議長として宮崎縣を鹿兒島縣より分離して獨立せしめたるが如き更に偉なりとす、其劈頭宮崎縣會議長に推されたる、蓋し當然のみ、性寛裕にして膽亦た小ならず、老來尙ほ一片奪ふ可らざる氣骨を存す、只だ惜むらくは頽齡既に前途に乏しきを

坂元 英 俊君

縣屬上りの小才子なれば、代議士としては働ける筈なけれど、殖産事業

に熱心にして地方斯業の爲めに盡瘁する所多し

山岡 國 吉君

大なる前途を有せざるも陣笠の雄たるは難からず

長谷場 純 孝君

小警部、郡長上りと云ふのみにて、何等の閱歴もなく、正式の學問をもなしたる事なき長谷場君にして、天下の大政黨たる政友會の領袖と仰がれ衆議院議長となり、文部大臣と爲る、誠に異數の成功と云ふ可し、其議長振りに至りては固より巨人星亨に比すべくもあらずと雖も、亦た決して老翁杉田定一の亞流に非ず、佐々木照山、鈴木天眼等の猛烈なる野次り方に



ビクともせず、ビシ／＼片を付け行く所など見上げたるものなり、郷里鹿兒島縣の代議士を悉く政友會の一手に收めたるが如き、確かに君の勢力の凡ならざるを見る

### 奥田榮之進君

鹿兒島の後進中に於て最も囑望せられ居るは君なり、鹿兒島縣會議長として意氣自から衆を歴し、能く議場を整理せる手際など、確かに新進中の鋭なるを失はず

### 武満義雄君

鹿兒島縣選出議員中にて長谷場純孝に次での古顔にて、近來多少名を知られ來りたるも、ムト金と同型視せらる

### 高森篤行君

所謂薩摩武士の面影を存し、名詮自稱篤行にして氣節を母ふるも、頭腦既に古く亦た當代の代議士たるに適せず

### 鮫島慶彦君

嘗て鹿兒島縣會の副議長たりしを聞くのみ、衆議院議員としては尙鳴きもせず遊びもせず



## 肥後幸盛君

口の人としてよりは手の人なりと聞くも、未だ院中に於て其の何等をも認められざるは遺憾なり

## 坂本元明君

小學教員より仕上げたる老人にて、代議士に當選せるは何處かに取柄のある人なるべきか

## 小橋榮太郎君

其閱歴より云へば北海道に於ける民權の主唱者にして、其風采は宛ら磐州翁を更に福々しくしたるもの、此人にして常に失敗を繰返へし來れるは寧ろ奇とす可し、君に能く七分の雅量と三分の俠骨あらしめば優に北海道の大立物たるを得ん

## 淺羽靖君

軀幹雄偉、音吐爽朗、而して亦た態度の悠揚迫らざる、人に接するに恬談洒落なる、何處から見ても豪傑式なり、ナニニ天ふらぢやと云ふものあれど、天ふらにしては食へる代物なり



兎に角北海道遷出の代議士に於ては其體軀と共に貫目ある點に於て第一位たるを拒む能はず、老獺無類なれと亦た何處となく稚氣を帯びてイヤ味なく、何處へ出しても一人前の男なり

東

武君

前の淺羽君とは正反對の小男、顔は縦よりも横に長く、飽くまで苦味走つたる所は、愛嬌なき島田三郎と見れば大した間違なし、貌クシヤ然たる此風貌は直ちに君の人格を語り居れり、其小才の利くと北海道唯一の大新聞たる北海タイムスの理事なる丈けに札幌でこそ相應に巾も利かせ居れど本舞臺に出す程の役者で無し

白石義郎君

逸早く郷里福島縣より選出せられ日比谷の檜舞臺に送られしも、忽ち失脚して北海道支廳長となり、町長となり、道會議員となり、今も亦た怪傑山縣勇三郎の一味に擁せられて再び代議士たり、晩年の思出として再び花を咲かしたる積りなるべし、阿々

遠藤吉平君

赤裸々の身を以て函館の元老と推重せらる、兎に角タ々の鼠にあらず名利に淡々たるが如く見えて存外野心深く、篤實らしく見えて其實陰險なる所あり、鳥渡測量に困しむ代物なり



# 高橋直治君

金儲けの外に取柄なき男なれど、代議士たらんと柄にもなき野心を抱き  
守銭奴のレコードを破り、思ひ切つたる馬鹿金を撒きて惜まざりしを奇と  
するのみ

明治四十四年十二月五日印刷  
明治四十四年十二月廿日出版

定價金六十錢

著者 鬼妖子

東京市京橋區銀座三丁目九番地

發行者 小林義尚

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷者 武廣和雄

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷所 合資 東京國文社

不許複製

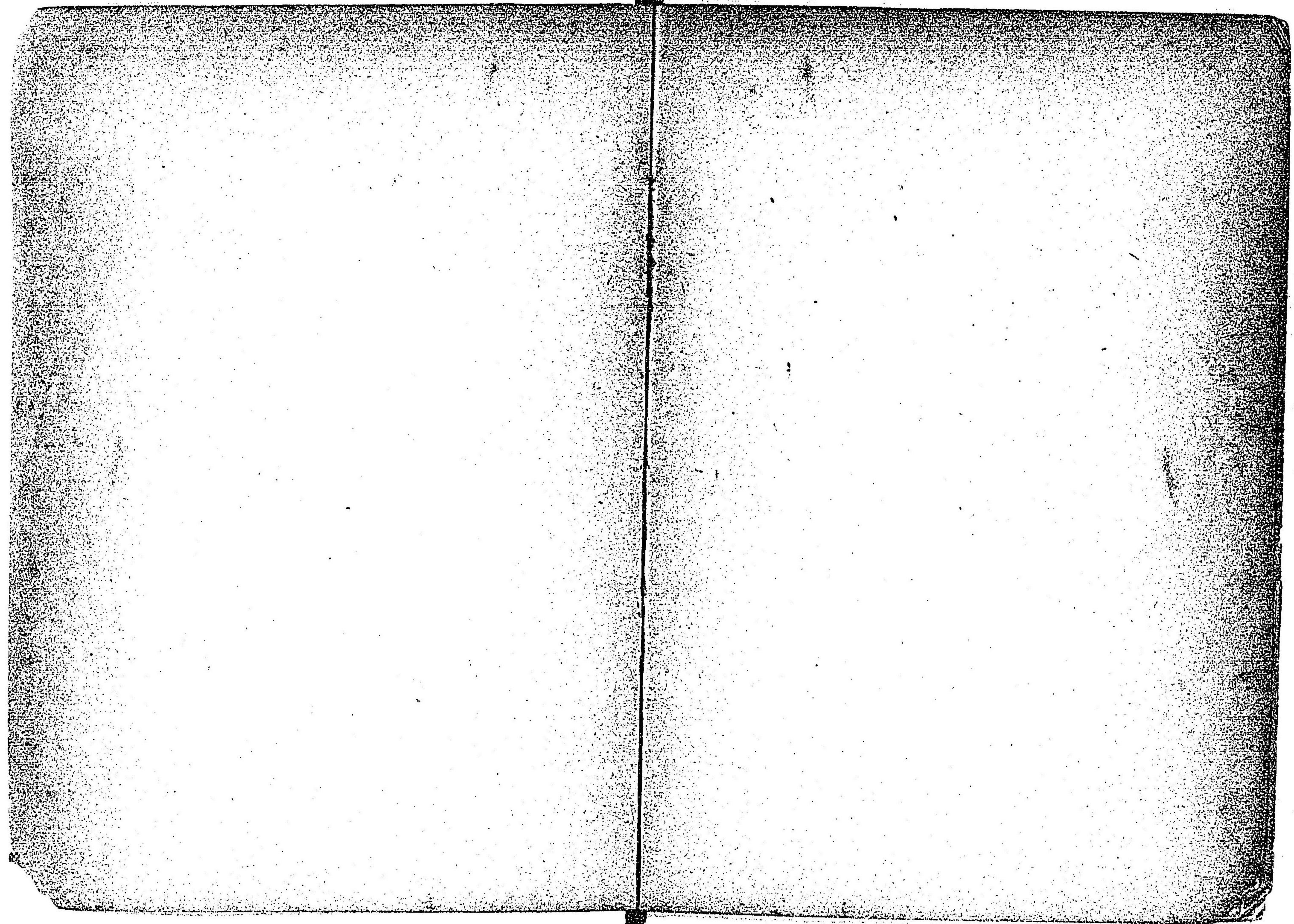
東京市京橋區銀座三丁目九番地

發行所

電話京橋二七二二  
振替口座三九九二

金櫻堂

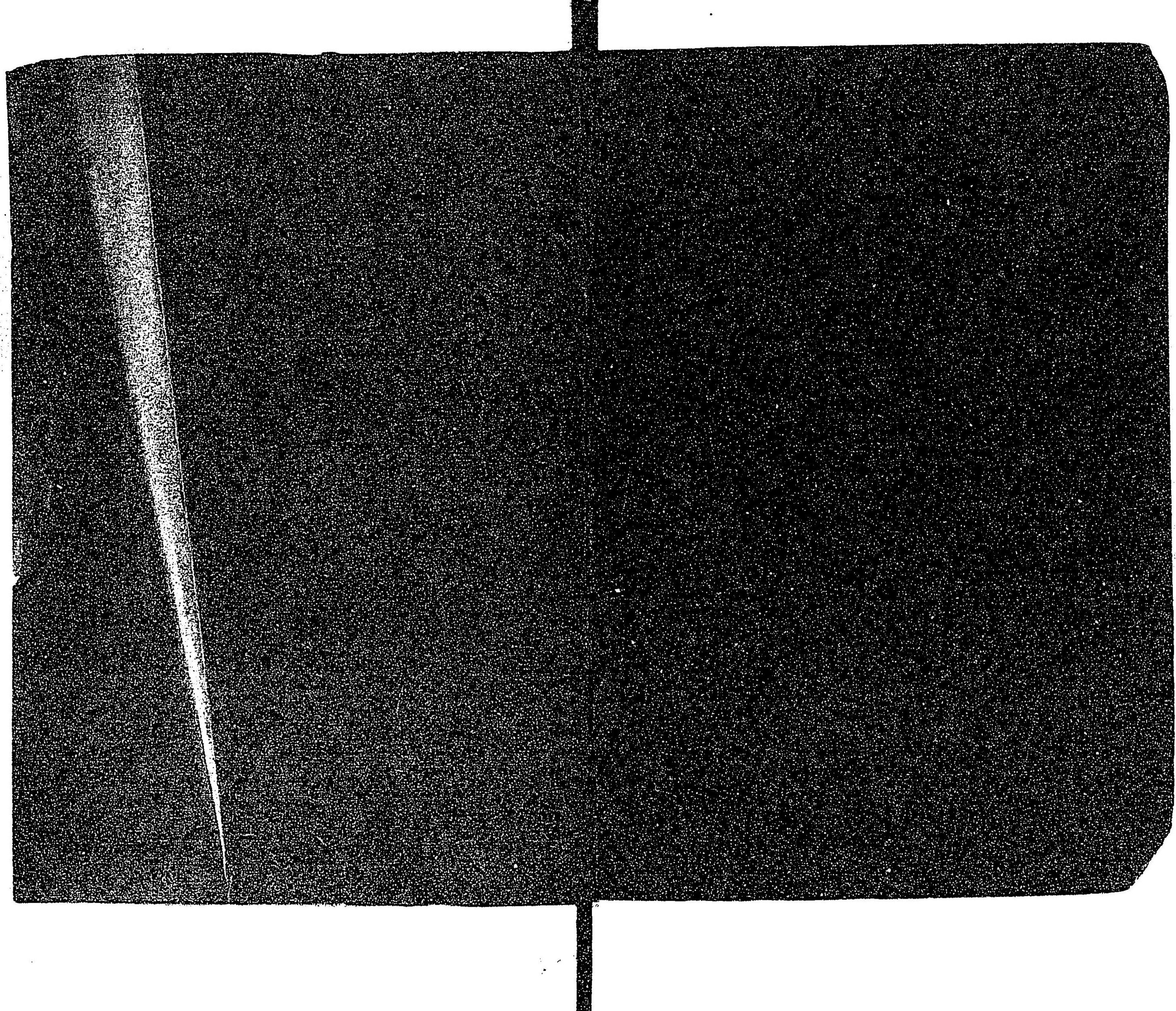




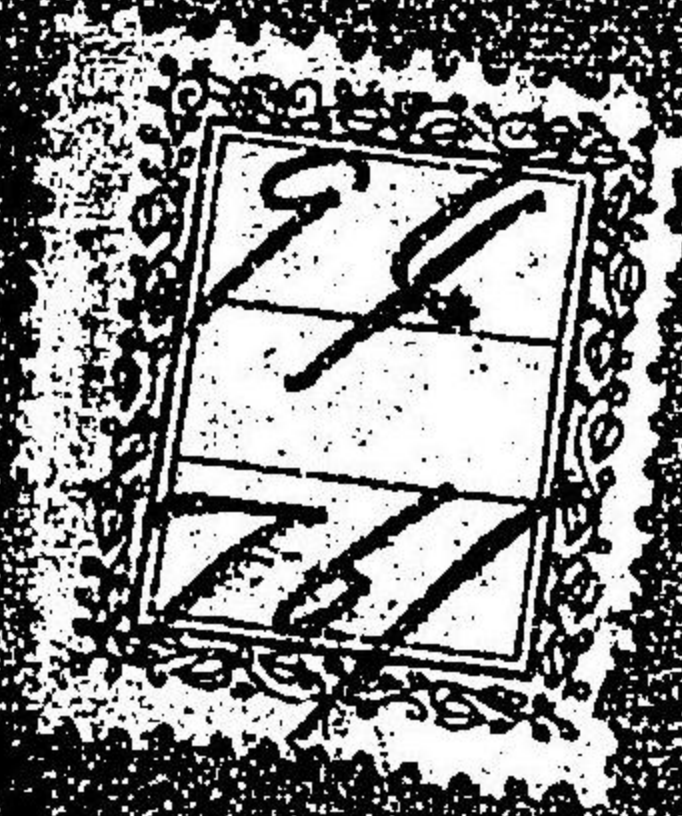


94
761

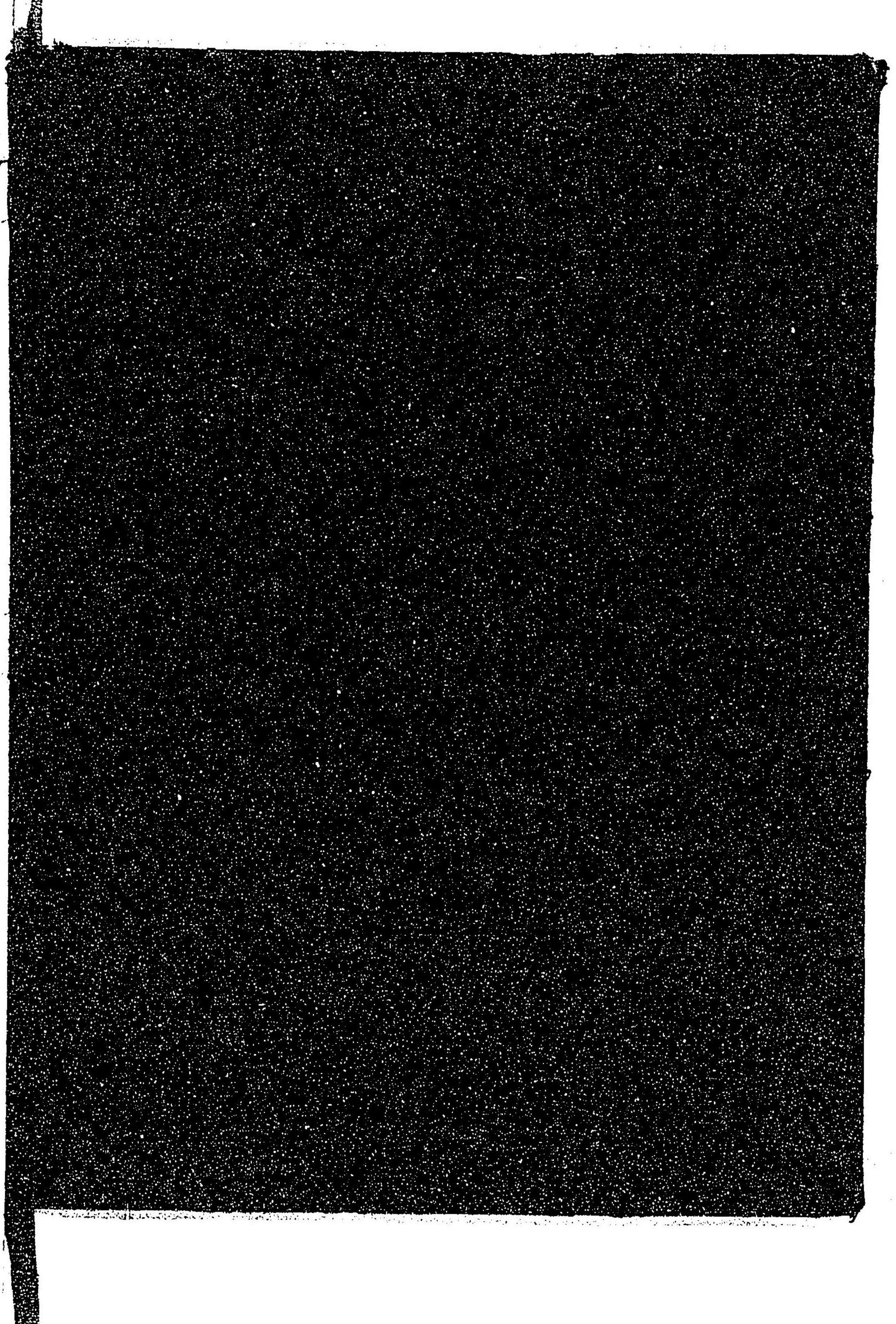














004471-000-2

94-761

三百七十九頭顱

鬼 妖子 / 著

M44

ACE-1003





